

先進事例 紹介

女性のチカラを活かして地域を守る！

～消防分野における女性活躍推進の取組～

山梨県 防災局消防保安課

1 山梨県の消防団の状況について

山梨県は世界文化遺産に登録された富士山を有し、県土の約78%が森林という自然豊かな環境であることから、林野火災の発生時など、災害に即時対応できる消防団の力は地域の安心・安全のために欠かせません。

全国的に消防団員数が減少する中、本県でも同様の傾向が続いていましたが、近年、各市町村の努力により減少に歯止めがかかっています。一方、女性消防団員数は増加していますが全国に比して少なく、県では、災害時の対応などに女性の参画を進める観点から消防団を中心に消防分野における女性の活躍を推進する取組を開始しました。平成27年度当初は県内27市町村中6市町村に94人だった女性消防団員は、平成28年度当初には10市町村に120人になり、その後も増加しています。以下、県の取組の概要を紹介します。なお、取組に当たり、消防庁「女性や若者をはじめとした消防団加入促進支援事業」を活用しました。



山梨県消防団員数の推移

2 女性活躍推進の取組

① 「消防女子の活躍推進セミナー」の実施

まず、県内の消防分野の女性たちの現状と課題の把握のため、消防本部や市町村から推薦された消防吏員、消防団員12人と山梨県女性防火クラブ連絡協議会会長に参加してもらい、「消防女子の活躍推進セミナー」を実施しました。消防団員確保アドバイザーで赤羽消防団副団長の小澤浩子氏を講師にお招きし講演及び意見交換のコーディネートをお願いしたところ、これまで、顔を合

わせることがなかった消防女子たちから、主に①女性の活躍の各種広報、②組織のトップや男性職団員の意識啓発、③女性のスキルアップや意識啓発が必要との意見があり、それらを参考に取組を進めました。

このセミナーでは全国の先進事例や災害現場での女性消防団員の活動についての講演などを2年間で4回実施し、スキルアップの場として多くの消防職団員が参加しました。



「消防女子の活躍推進セミナー」の様子

② 消防団員確保PR事業の実施

「消防団＝男性」というイメージを変えることなどを目的に、サッカーJ1クラブ・ヴァンフォーレ甲府の試合会場で、甲府市消防団、甲府地区消防本部、同クラブの協力により女性消防団員による啓発資料配付や、場内を一周して消防団員募集のPRを行うなどの啓発活動を実施しました。



ヴァンフォーレ甲府の試合会場でPR

③女性消防団員活躍推進ハンドブックの作成・配布

女性消防団員の活動の参考資料として、現場の女性消防団員の声を活かし、消防団活動の概要や、各市町村の状況を分かりやすくまとめ、AR※による動画も視聴できるハンドブックを作成しました。多くの方に手にとってもらえるよう、教育機関を始め子育て支援施設、経済団体を通じて企業等にも配布しました。県のホームページでデジタルブックが閲覧できます。

※AR：拡張現実（Augmented Reality）

④トップセミナーの実施

消防団の幹部を始め男性団員に理解を深めてもらおうと、消防分野の女性リーダーとして活躍されている元東京消防庁丸の内消防署長の谷口由美子氏と赤羽消防団副団長の小澤浩子氏を講師にお招きし、対談形式で常備・非常備消防のそれぞれのお立場から実体験や現場の課題について本音でお話いただくトップセミナーを実施しました。東日本大震災などの事例を基にした様々な視点からのお話は強く心に残ったとの声が寄せられました。



赤羽消防団副団長の小澤浩子氏



元東京消防庁丸の内消防署長の谷口由美子氏

⑤女性消防吏員の増員に向けた働き掛け

本県は女性消防吏員数も平成28年4月1日現在で8名、全体の割合の約0.7%と少ない状況です。消防吏員採用試験情報などを記載した啓発用のチラシを作成し、県内の大学や高等学校の進路指導担当者に学生、生徒への配布を依頼しました。

3 最近の状況

取組を始めてからの2年間で、5市村で女性消防団員が新たに誕生しています。

特に21人が入団した富士吉田市消防団は、女性消防隊の設置を目標に、団長を始め消防団の幹部と市の安全対策課で市の広報誌に女性消防団員募集記事を掲載し、募集チラシを作成・配布するなど広報を開始しました。市の職員だけでは災害時に本部対応が主になるため活動が困難なことや、活動に当たり様々な立場の方の意見が

反映される方が良いと考え、市内の企業などにも積極的に働き掛けを行ったことが功を奏し、年代は20代から60代まで、職種も幅広く、交通、金融、製造に従事する方や看護師の資格を持つ方などが入団しました。今後、各団員の視点が反映され、多様な活動に発展することを期待しています。



富士吉田市女性消防隊辞令交付式

4 まとめ

このほか、県の広報番組などで女性消防団員の活動を紹介するといった地道な取組を積み重ね、市町村のヒアリング時の確認では、12月末現在で県内の女性消防団員は約150人に増加しました。女性消防団員の活動について新聞やテレビなどで取り上げられる機会が増えたことも推進力になったと感じます。

平成29年度には、更に複数の市町村で新たに女性消防団員が誕生する予定です。県では女性のエンパワーメントを始めとして各市町村の消防団活動を支援し、地域防災力の向上に資することができるよう、新たな取組を進めてまいります。

これまでの取組の詳細は県のホームページで紹介しています。

<http://www.pref.yamanashi.jp/shobo/shobojoshi.html>